

■(5代)朝日丹波(郷保) 松江藩家老。藩主松平宗行・治郷のもと、藩政改革を実施し、藩財政を再建した(御立派の改革)。

あさひたんば

御蔭参流行・1705= 出雲国松江で、代々藩執政の家柄の朝日但馬の子に生まれる。名は茂保、のち郷保。

徳川綱吉没・1709= 4歳 :

冥途の飛脚・1711= 6歳 : 家督を継ぎ、

絵島事件・・・1714= 9歳 :

徳川吉宗將軍1716=11歳 :

火の見櫓制・1723=18歳 :

享保大飢饉・1732=27歳 :

藩財政が窮乏して行くなか、

昆陽蕃諸考・1735=30歳 : 中老、

江戸船出没始 1739=34歳 : 仕置添役となる。

・・・・・・1741=36歳 :

梅岩没・・・1744=39歳 : 家老として仕置役となるなど、順調に出世してきたが、

徳川吉宗隠居1745=40歳 : 成人して初めてお国入りした6代藩主松平宗行から、

義経千本桜・1747=42歳 : 打開策を求められるも時代の流れに抗することができず、藩主宗行抜擢した小田切備中を補佐役に延享の改革を断行するに当たり、仕置役を解任される。

忠臣蔵・・・1748=43歳 : この年、徂徠門下の宇佐美恵助を江戸藩邸の藩儒に招かれ、

富商・地主の富力を活用し、義田方趣向と称する田地の切り売りによって資金を調達。藩営の商工業をおこすなど積極的な財政運営をとり、

・・・・・・1750=45歳 :

徳川吉宗没・1751=46歳 : この年、俸禄制の改革荒井三斗俵が実施されるなどするが、上手く行かず、

・・・・・・1752=47歳 : この年には、この年、藩主親政は終り、重臣による仕置役制に戻され、

薩摩藩工事・1753=48歳 : この年、引退せざるを得なくなった小田切備中が改革の内容を40か条まとめた「報国」を著す。

この間、蠟燭の製造と原料のハゼ栽培を管理する(木実方)が設置され、

・・・・・・1756=51歳 : この頃、藩営の鑄造所(釜甌方)が設置される。

源内物産会・1757=52歳 : この年、林羅山門下の桃源蔵が藩儒に招かれ、

宝暦事件・・・1758=53歳 : この年、藩校(文明館)が設置されたりするが、資金繰りの行き詰まり、改革施策が破綻したところに、

大式政治批判1759=54歳 : *比叡山延暦寺の修築を幕府から御手伝普請として賦課されると、藩主宗行から手伝の総奉行に任命され、仕置役に復帰していた小田切備中と協力して、

大岡忠光没・1760=55歳 :

・・・・・・1761=56歳 : 工事に着工、

・・・・・・1762=57歳 : 短期間に竣工させて、藩主宗行の信頼を勝ち取る一方、

その負担から、藩は深刻な財政難におちいり、ついに万策尽きたのを見ると、

江戸からアレコレ命令するだけの藩主は、さっさと引退すべきですと指導を渡し、

忠臣蔵大当り1766=61歳 : 隠退を決意した藩主宗行により、世嗣治郷の後見役となるよう仕置役復帰を命じられ、

意次側用人・1767=62歳 : *藩主宗行から一任の保障を取り付けた上で、治郷が襲封して7代藩主となるや、御立派の改革と呼ばれる新たな政策を打ち出し、

久留米藩工事1768=63歳 :

田沼意次老中1772=67歳 :

小田切の富商・郷農との提携策を否定し、勸農抑商主義のうえに立って藩の権威確立を図り、

黄表紙始・・・1775=70歳 : *自らの政策の展開に自信を持って、「治国譜」「治国譜考証」をまとめ、

・・・・・・1777=72歳 :

短期間に藩財政は再建されて、茶人不昧が天下の名器を収集することも可能にし、加増や下賜の上、藩主の名一字を与えられて郷保と改名するなど、厚遇され、高齢のため度々辞職を願い出るも慰留され、

源内獄中死・1779=74歳 : この年、小田切備中が死去。

・・・・・・1781=76歳 : *ようやく許されて隠居し、

天明大飢饉始1782=77歳 : この年、前藩主宗行が死去、

蘭学階梯・・・1783=78歳 : 没した。

隠居直前、藩庫へ藩主治郷を案内し、3万数千両の箱があるのを見せてしまったため、以後、治郷が日本の名物(茶器・茶道具)を残らず集める野望を抱くことになってしまったことを悔やんだが、治郷は不昧として、茶道に名を残すことになる。